

ORION NET

おりおん ネット

2003.8 第16号

目 次

ひゅーまんパワー ~地域づくり団体紹介~

松明をもりたてる会.....	2
やぶき響の会.....	3

パートナーシップ ~協働の地域づくり~

富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会	4
--------------------------	---

サポート事業だより

つちゆ昆虫物語.....	5
久川城太鼓保存会.....	5

特集 ~全国津々浦々 県外におけるユニークな取り組み~

手作りトマトケチャップで地域づくり(明宝レディース) ...	6
--------------------------------	---

キーパーソン ~地域づくり実践者紹介~

村野井 幸雄 さん.....	7
矢渡 伊左夫 さん.....	7

インフォメーション.....

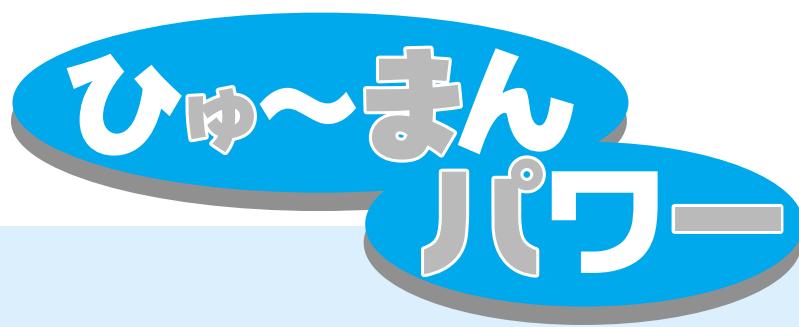
8

おりおんネットとは

福島県が持つ7つの生活圏の配置を、夜空に輝くオリオン座になぞらえ、個性豊かな7つの生活圏がそれぞれ独自の地域づくりにより圏域内の連携を図って1つの星としての輝きを増すとともに、7つの星が互いに連携し協調しながら大きな星座～福島県～として一体となって、さらに発展してゆくことをイメージしています。

福島県の7つの生活圏をご紹介します。





松明をもりたてる会

事務局長 佐藤 貴紀

福島県須賀川市で400年続く日本三大火祭りのひとつされる「松明あかし」。私達はこの祭りを盛り立てる為に結成した団体「松明をもりたてる会」です。今年で結成21年目を迎えます。何故、この様な団体が出来たかというと、当時の「松明あかし」は現在のような形ではなく、どちらかというと規模縮小の方向でした。そこで、「せっかくの祭りがこのままでは駄目になってしまう」という事から須賀川市内で活動していたサークルの代表が集まり本物の松明を作り、火を点け、祭りを盛りあげていこうということで結成されたのが始まりと言われております。

現在の活動内容ですが「松明あかし」は11月の第二土曜日に行われております。会が活動するのは、9月の上旬から例会を行い今年の流れや、去年の反省点の対策などを話し合います。

10月の上旬には、松明の製作が始まります。初めに松明の中に入れる萱(かや)を自分たちで刈り、乾燥させます。量的には3tトラック3台分を満載するほどです。萱の準備ができたら、松明の形を保つための骨組みを、桶のタガのように竹を加工して作ります。この作業は、竹細工の職人さんと桶を作る職人さんにお願いして作ってもらっています。ここ数年は、自分たちでも挑戦はしているのですが、職人さんに言わせると「とても使い物にならない」と言われています。このタガの準備が終わると松明の顔であるゴザを縫い合せます。ゴザは協力して頂いている畳屋さんから、使用済みのゴザを寄付してもらい、汚れていない所を集めながら作ります。



大松明の製作

10月中旬から下旬は、市役所との細かい打ち合わせや他の参加団体から要請があれば、松明製作の指導をしたりします。11月に入ってからは、「大松明」・「姫松明」の製作です。大松明は、長さ10m重さ約3t直径2m程あり一週間がかりで作り上げます。会員は、10月からは、日曜日はほとんど松明あかしのために使っています。

そして、松明あかし当日となり、松明を担いで運び、10mもある松明を立てるのは、普通に考えれば重機を使うと思われるところですが、私達の作っている松明は人の力で立てます。ここが一番緊張する時です。危険ですが、細心の注意を払い作業をしているので大きな事故はありません。そして点火となり、会員は、燃えている松明を見ながら、今年の反省をし、来年はどうするかを話します。



松明あかし

松明は練習ができない一発勝負のものです。ただ燃えれば良いのではなく「綺麗に燃える」というのを重点に置いています。そのために毎年、松明の中身を色々と工夫をしています。それでも今まで、うまくできた年はありません。今後の抱負は、前年よりも綺麗に燃える松明を作り、たくさんの人に「松明あかし」を見てもらえるように、「松明あかし」を盛り立てていければと思っています。

やぶき響の会

事務局長 加藤 久美子

「さわやかな田園の町やぶき」と言うのが、わが矢吹町のキヤッチフレーズです。町には十数年前に文化センターができました。ここの大ホールは音響も整備され、クラシックのコンサートにも十分対応できるホールなのですが、なかなかその良さを発揮できる企画が少ないように感じてありました。そのような同じ思いを抱いていた7名が「この箱物を、箱だけで終わらせるのはもったいない」という事で、音楽をとおして何か交流しようと、平成13年4月に「やぶき響の会」としてスタートしました。

今までの主な活動は、以下のとおりです。

平成13年 6月	赤坂達三クラリネットプレコンサート(入場無料)
平成13年 9月	ロマンティクコンサート第1章(高嶋ちさ子v、赤坂達三c、白石光隆pコンサート) 交流事業(中学生、高校生へのクラリネット指導)
平成14年 2月	ロマンティクコンサート第2章「アカブルコの月」(桑山哲也ボタンアコーディオン&桑山バンド) 交流事業(矢吹中学校3学年の卒業コンサート、生徒・保護者・先生との協同企画)
平成14年10月	ロマンティクコンサート第3章 (ゲーデ・トリオ&赤坂達三、ハラルト・クルンペックによる弦楽3重奏とクラリネット5重奏) 交流事業(矢吹小学校訪問演奏会と国際交流)



桑山バンドによる演奏

今後の予定としては以下のとおりです。平成15年10月に錦織健テノールリサイタル 交流事業:近隣市町村の各中学校、各高校合唱部への指導。このような事業をとおして、多方面の方々とふれあい自分たちがこの町のために何が出来るか、何が必要か、

足りないところは何なのかを考えようとしています。

また、事業も既成のものではない、地域に即した音楽会にしたいと努力しています。現在の会員は矢吹町を中心に23名で、男性10名、女性13名ですが、今後は近隣の市町村で音楽に興味があり、一緒に活動して頂ける方々にもっと働きかけ、仲間を増やし、他町村の方々にも、矢吹町と矢吹町文化センターの良さを知っていただきたいと思います。男女共に30才から40才の方々が主で、気合十分、町を愛する熱血メンバーです。

響の会は、町の地域づくりグループにも所属し、地域の活性化は勿論、青少年に豊かで質の高い音楽に接する機会を少しずつですが、提供していきたいと思っております。メンバーは、音楽会を企画、運営する楽しさと、少しの苦労をわかつあっています。



第1回交流事業 クラリネット指導風景

富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会

富岡町の桜は百年の歳月に耐えて様々な恩恵を我々地域住民に与えてくれました。現在に生きる我々が百年後の子孫の為にできること、それは先人の遺志を継承した新たな並木道づくりと、富岡町の象徴であり全町民が賛同する「桜」をテーマにした町づくり。そんな思いから「桜のとみおか」委員会は、町内各団体の有志により平成9年10月に発足致しました。

平成10年度より国の補助事業として展開してきました桜文大賞「桜にまつわる想い出の手紙」募集事業は、富岡町及び富岡町商工会の主催により、日本郵政公社・日本さくらの会・ペンフレンドクラブ協会・福島県・マスコミ各社などの後援のもと、町内各団体をはじめとする地域住民の理解と協力に支えられながら、15年度は富岡町観光協会の桜事業の一つとして第6回を迎える事となりました。

中核事業としての「桜にまつわる想い出の手紙」募集では、一次・二次審査において町内の学校長先生や郵便局長さんなどにお願いするとともに、最終審査には歌手の小室等氏をはじめ、著名人4名の方に選考委員として参加頂いております。また、審査結果発表式・表彰式は、南双葉青年会議所・商工会女性部・同青年部・学校PTAの皆さんのご協力を得ることで運営して参りました。

その他、桜文化についてのディスカッション(桜サミット)、受賞作品パネル展(富岡郵便局にて)、全国桜祭りポスター展(富岡商店街えびす講市)など、年間を通じて桜に親しんでもらおうと努めています。

昨年度は念願だった桜の植栽事業にも着手し、富岡川河川敷に桜を植えることが出来ました。行政・関係各省庁をはじめとする、富岡の川をきれいにする会・富岡町建築士会・諏訪神社・ふたばグリーンレディースネット



夜の森 桜並木

「桜のとみおか」委員会委員長 村井 良一

ワークの皆さんとの理解・熱意・協力なしには実現できなかった事であると深く感謝申し上げます。

現在は植栽部会のメンバーが、町内の桜を調査し桜台帳の作成及びそれを基本とした桜マップづくりをしていますが、その利用方法もこれからの課題となっております。秋には地域住民を悩ます「枯葉」を利用したブル

遊び・焼芋大会そして有機肥料作りにも

チャレンジして行く予定です。

桜事業を実施したことにより、マスコミをはじめ県内市町村や桜を名所に持つ自治体などから注目を浴び、相互に情報や人材の交流を通して「桜の咲く富岡町」としての話題性を情報発信することができました。町内においても桜をテーマとすることの信頼感による変化が、名称の変更や事業計画に現れてきたように感じます。

富岡町に住む人々にとってはあって当たり前の桜に対する『謝意と誇り』が、多くの町民の胸のどこかに芽吹き始めていると「桜のとみおか」委員会は信じています。

連絡先 / 富岡町観光協会「桜のとみおか」委員会

〒979-1192

富岡町大字本岡字王塚622-1

☎ 0240(22)2111(代)

FAX 0240(22)0899

E-mail kikaku@tomioka-town.org

URL <http://www.futaba.ne.jp/wasse/>

富岡町商工会ホームページ上に専用応募用紙・受賞作品が掲載しております。

第五回 桜文大賞
最優秀賞受賞作品

母にあげた泥んこ桜

福島県南会津郡田島町・十一才
松田 梨奈

お母さん覚えていますか?私が幼稚園の年長さんのころ、バスの待ち時間にいつも作ってプレゼントしてもらおう。それは幼稚園の園庭に桜の木があって、その近くに落ちている花びらを泥とませ、ナイロン袋に入れて、家に持つて帰つたことだよ。今思つて何で、あんなきれいでもかわいくもない物を持って帰つてたんだろうって思うよ。でも、あんな汚い物を、お母さんは二コ二コしながら、「ありがとう。きれいだね。」って言って、ゴミ箱に移しかえ、台所に置いてくれたよね。あの時すごくうれしくて、次もまた作つてこようつて思つたんだ。今こうやって中学生になつてみれば、桜の季節に泥んこ桜を作る事は、なくなっちゃつたね。でも、今度は泥じやなくて水でかわいく作つてあげるからね。



サポート 事業だより

ステキな“地域づくり”を

ご紹介します。

つちゅ昆虫物語

事務局長 池田 和也

土湯温泉観光協会は、土湯温泉の観光振興を目的として、旅館 25 名・商店 20 名・飲食店 4 名・こけし工人 7 名・町民会員 23 名・賛助会員 62 名・特別会員 5 名の総勢 146 会員からなる組織です。

土湯温泉は、国立公園内にある谷あいの温泉地であり、自然豊かな地域です。以前は、夏ともなると「ホタル」が乱舞し、「カブトムシ」捕獲で山谷を走り回る子供たちの姿が見られました。しかしながら、近隣の開発や生活環境等の変化によりその姿が見られなくなりました。



このような環境の中で、昨年から土湯小学校の総合学習の一環としてホタルの餌となるカブトムシの育成を支援することをきっかけとして、昔の土湯を呼び戻そうという気運が高まりました。



カブトムシハウスの製作

土湯には土湯こけしという伝統工芸があり、そのこけし製作時の木くずをゴミとして処理していましたが、その木くずを「カブトムシ」幼虫の飼育材料として活用し、その後の腐葉化した木くずは植栽物への堆肥として利用を図る〔産廃物のミニリサイクル〕も兼ねた物語として計画しました。

この計画の実施により、土湯に昔の風情を呼び戻し、観光に訪れる



カブトムシハウス全景

人々に子供の頃の郷愁と癒しを提供し、地域観光発展のひとつとしたいと考えています。さらには、地元住民と小学児童が一緒にになって昆虫観察や飼育をすることにより、地域内でのふれあいが高まると期待しています。

生命力の弱い昆虫を飼育するということは、生きるための環境を維持しなければならず、その継続した環境維持対策が今後の課題です。

今後の抱負としては、「ホタル」や「カブトムシ」が土湯の夏の風物詩として認知される地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

久川城太鼓保存会

会長 馬場 忠明

平成元年、ふるさと創世事業を受け、郷土の誇りを後世に伝えようとの目的から、久川城のある青柳地区の人たち男女 40 名によって「久川城太鼓保存会」が結成されました。

平成 2 年からは創作太鼓のエキスパートである太鼓集団「天邪鬼」主宰、渡辺洋一氏に作曲・指導を受け、レパートリーを増やしつつ練習をかさね、村の「久川城まつり」をはじめ、県内外のイベント等に積極的に参加し好評を得ております。

しかし、県外の同じ講師に指導を受けている太鼓団体のほとんどが、毎年太鼓祭りを盛大に実施し好評を得ている話を聞きうらやましく思っていました。そこで、なんとか自分たちで太鼓まつりを実施し、競演・交流をとおして技術の向上と広域交流を図り、また村内外の人たちの活力と癒しの場を作り、子供たちに和楽器に親しんでもらおうと、平成 13 年度から地域づくりサポート事業として「久川の里和太鼓フェスタ」を実施しています。

内容は、子供の太鼓技術の向上と広域交流を目標とした子供太鼓の競演をメインに、講習会や以前から交流している英國大使館の太鼓チームと当保存会及び青柳婦人会八木節舞踊会との競演、最後に太鼓講師の模範演奏を行っています。



子供太鼓の元気いっぱいの演奏

子供太鼓については、ぐんぐんと技術が向上し、平成 14 年度全国ジュニアコンテスト福島県予選会では当保存会子供太鼓が第 3 位に入賞しました。

地元の人たちからは、子供たちの演奏が「とてもかわいい」とか「元気な演奏を聞くと自分も元気がでてくる」など毎年太鼓フェスタが楽しみとの声が多く大変満足しています。

また、英國大使館からの来村者も年々増え、交流会へも多数参加いただいております。

今後も、国際交流をとおし、多くの人たちが訪れる豊かで活力ある村づくりを目指し、「久川の里和太鼓交流フェスタ」を継続していきたいと思っています。



英國大使館太鼓会(ドン“BRI”の演奏)

～県外におけるユニークな取り組み～

手作りトマトケチャップで地域づくり（明宝レディース）

岐阜駅から東海北陸自動車を利用して2時間余。岐阜県のほぼ中央に人口2,190人の明宝村がある。明宝村には5つの第3セクターが設立されており、全国的に知られている明宝ハムの製造・販売を手がけている明宝特産物加工株式会社（年商12億円、従業員73名）もその一つである。今回は、平成4年に女性だけにより設立され、手作りトマトケチャップの製造・販売などを通して10年連続で黒字を生み出している明宝レディースの本川栄子代表取締役社長にお話を伺った。



明宝レディース設立経緯

昭和56年に食生活改善運動の仲良しグループ7人での青空市が始まりです。「このまま一生草取りで終わるなんか。もっと楽しもうよ。」と親睦を兼ねて村民センターの駐車場で市を開催しました。

こんにゃくやさつまいもの試作・製造、夏秋トマトの栽培と規格外のトマトによるケチャップづくりも始めました。製品として自信が持てるまで6年程かかりました。

青空市の活動を続けていた私たちグループに、当時の村長が「村には、4つの3セクがあるがもう一つ是非、女性だけによる3セクを作らないか。」と相談されました。

「私たちは、主婦であり経営なんかやったことはない。会社は無理。」と断りましたが、村長は諦めず私の家にまで来て、「一步踏み出す勇気が必要だ。とにかくやってみてくれ。」と強引に話をまとめられてしまいました。

会社設立当初は、株主総会、給与など何もわからず手探りの状態でした。また、トマトケチャップのPRのため、あらゆるイベントに参加したのですが、思うように売れませんでした。でも、味には自信があったので、「味を知ってもらうまではこつこつ頑張ろう。」と皆で続けました。

売れ始めのきっかけは、平成9年と平成13年に放映されたテレビ番組で紹介されたことです。宣伝費は一切出しません。おいしいものは口コミで広がると思っていました。



現在の活動状況

昨年は、100tの規格外トマトを仕入れたのですが、注文数に間に合わず3月～7月までケチャップづくりを休まざる得ませんでした。農家の人に「わざと規格外のトマトを作ってください。」と冗談を言う程仕入れが足りませんでした。しかし、トマトケチャップの他に、1年を通して、ディサービス利用時の弁当、豆腐の製造、温泉施設に併設したレストランの経営、バイキングの開催、秋には、紅葉狩りに来られる方への仕出し弁当づくり、冬には、スキー場における売店など多角的な経営を行っているた

め、社員に休んでもらうことはありませんでした。特に、秋の紅葉刈りにおける弁当づくりは、20日間、朝5時から8時まで2,000食の弁当を作りました。弁当づくりが終わって通常の仕事が始まるのです。

会社設立から早や10年になります。昨年の売上げは1億7千円程度でした。会社の建物やレストランを経営している温泉施設は、村の所有であるため、年間600万円の使用料を村に支払っています。また、400万円を村に寄付できるまでになりました。女性だけでもやれるんだと自信を持つことができました。もちろん、村や家族の協力があったから続けてこられたのです。

明宝レディースは、トマトケチャップづくりだけでなく、かぶ、しそ、とうもろこしなどの野菜を作ってもらう農家と契約栽培を結んでいます。種代を半分出させてもらうかわりに野菜を出荷してもらっています。じゃがいも、大根など自家用に作ったが、食べきれなかった野菜も農家から買い取ります。1kg、2kgの少量でも買います。買い取った野菜全てをレストランやバイキングで食材として使うのです。明宝村では捨てる野菜がありません。スーパーに行けばもっと安く買えるのですが、農家の現金収入の道となるため、地元農家から購入するのです。

また、ふき取りツアーも行っています。山のてっぺんに秤を持っていき、ふきを量り現金交換です。1ヶ月で8万円のふきを取った方もいます。

これからの活動

当時の村長の勢いに押されて会社を設立したのですが、今では設立して良かったと思っています。生活していくには仕事が必要です。給料を払うためには利益がなければなりません。24名ではありますが雇用を生み出すことができました。料理が好きなのでここまでやってこれました。仕事が楽しいのです。「やる気、元気、勇気」をモットーに続けています。

これから、お年寄りが集まる喫茶店や豆腐料理の店を是非オープンさせたいと考えています。

訪問を終えて

明宝レディースは、地元産のトマトにこだわり、仕入れがなくなったらトマトケチャップの製造は中止、農家で消費できなかった野菜は少量でも全て買い取るなど、地元農家とともに歩んでいる第3セクターでした。

「自分で自由に使えるお金があるといいでしょう。百姓だけしそよったらお父さんにお金ください」というしかないです。孫の顔を見れば仕事のつらさも忘れます。」と結んでくれた本川社長の言葉が印象的でした。



本川 栄子 代表取締役社長

連絡先

株式会社 明宝レディース

〒501-4302 岐阜県郡上郡明宝村寒水268-1

☎ 0575(87)2388 FAX 0575(87)2703

むらのい ゆきあ 村野井 幸雄さん



プロフィール

1930年生まれ。福島県会津高田町出身。昭和24年教員となり、平成3年公立中学校長退職。「ネパールに学校を建てる会津若松ボランティアグループ」の一員として、現地に5回足を運び、交流を継続。方言次世代継承事業実行委員会委員長。福島県方言を語る会会长。福島県現代詩人会会长。

「母のふところに置き忘れた方言のぬくもり」を呼び戻そうと「方言は文化なり」を唱え、書き言葉による方言の表現方法を音声によるものにしようと10年前から活動しています。

平成14年度は、会津弁による昔話のCD化やパソコンで遊びながら学習する方言すごろくなどのCD-ROM作成（付録として野口シカの手紙、会津の民話「タニばあちゃんの昔語り」）方言セミナーを開催（5回）しました。

平成15年度は、CDやCD-ROMの第2弾の作成、小中学生向けの方言セミナーの開催、10月25日に県下方言コンテストの開催（第1部：昔話の発表、第2部：シカの手紙朗読部門）を予定しています。

このほかに方言を語る会で毎年実施している他県との交流の旅「よだかの星（岩手）の旅」「千曲川旅情の旅」「蛙の詩人心平を訪ねる旅」「遠野の河童に会う会」「群馬県猿ヶ京昔話交流会」は好評で、今年も「秋田のなまはげと語る会との交流」を8月23、24日に実施します。また、「障害者と共に童謡を歌って民話を聞く会」も毎年実施しています。

私たちは、方言ばかりにこだわるのではなく、子どもたちが普段は標準語で話せるよう、学校教育で共通語をしっかりと学んでもらうことを望み、その一方で、先祖から受け継いできた土地の言葉である方言を“宝言”として大切にしてもらおうと、ささやかな活動を展開しています。



毎年実施している語り部の世界

やわたり いさお 矢渡 伊佐夫さん



プロフィール

昭和23年10月生まれ。平成14年より中世古城八潮見城探検隊長として八潮見城跡保存活動を始める。遠野町商工会理事。遠野町地域づくり振興協議会幹事。

いわきの山あいに位置する遠野町は、昔より御斎所街道（県道いわき・石川線）の要衝の地で、古くより宿場町として交流の盛んな所でした。それ以前は、戦国領主上遠野氏の居城「八潮見城」の城下町としてなりわいを立てていた土地です。

八潮見城はその名の由来の如く、本丸頂から見る「いわき七浜」と茨城の北端の潮路がまさに絶景で、“ほっとする遠野”を満喫させてくれます。四季を通しての山々の映りも素晴らしいものです。現存する遺構は県内でも有数のものと評価をいただいており、この貴重な文化遺産を町づくりに活かして、尚かつ遠野のシンボルとして保存していきたいとの思いから、有志によるボランティア団体「八潮見城探検隊」が発足しました。

まず、地権者の皆さんとの理解を得、また遠野町地域づくり振興協議会の支援を受けて散策路や城跡整備を始めた訳ですが、何しろ山城跡ですから全てが人力に頼るもので大変でした。現在まで風倒木伐採、山小屋建設及び丸太橋作製と見学に訪れた人達が歩きやすいように工夫をしてあります。昨年、県のサポート事業の支援を受け、一段と充実してきましたが、後を引き継いでくれる人達に少しでも負担をかけないようにと頑張っています。

この遠野の自然を大切にしようと地域では様々なボランティア団体が活動しています。自然公園設立準備会の花いっぱい運動、又は鮫川の清流を守る会、滝富士登山道整備ふれあい会等々と取り組みが盛んです。子供たちが夢を持てるふるさとづくりのため、今後も互いに協力しあい、無理をせずに安全第一をモットーに続けていきたいものです。



ハイキングコース雨天時の避難小屋建築風景
(現地で伐採した木材を使用)

イベント情報

第6回読書コミュニケーションフォーラム全国大会

読書コミュニケーションネットワークは、「読書でコミュニケーション」を合言葉に、子どもたちを地域活動の主役にした読書活動を支援しています。

谷川俊太郎・賢作さん、作家の灰谷健次郎さんをお迎えし全国大会を開催します。是非ご参加ください。

とき 平成15年8月21日(木)~23日(土)

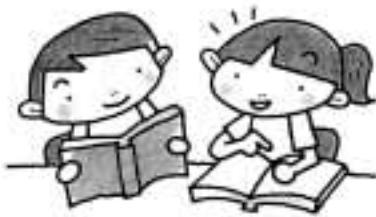
ところ 学校法人郡山開成学園郡山女子大学
(建学記念講堂ほか)

主催 読書コミュニケーションネットワーク

問合先 日本旅行福島支店(半沢)

☎ 024(522)6163

<http://www.h2.dion.ne.jp/booklove/>



南会津音楽祭

南会津郡を中心としたアマチュアバンド・コーラスグループ・YOSAKOI踊りなど、様々なジャンルの音楽が披露されます(入場無料)。フリーマーケットや出店もあります。

とき 平成15年8月23日(土)、24日(日)

両日とも12:00~18:00

ところ 田島町びわのかげ運動公園特設ステージ

問合先 南会津音楽祭事務局(田島町企画振興課内)

☎ 0241(62)6200

友好都市フェア

江戸時代より深い結びつきのある三重県・桑名市、埼玉県・行田市、白河市の友好都市締結5周年を記念して、伝統芸能、観光PR、特産品販売などを通じ地域間交流を深めることを目的として開催します。

とき 平成15年8月23日(土)~24日(日)

ところ 白河市城山公園・芝生広場

問合先 友好都市記念事業実行委員会(白河市商工観光課内)

☎ 0248(22)1111(内線2214)

郡山地域芸術・文化活動活性化事業

中高生とプロのバンドとの合同練習や成果発表会により音楽の楽しさ、素晴らしさを発見してもらうとともに、知的障害者の共同作業所の方々との交流を行い、ボランティア活動に対する認識を高めていただく事業です。

成果発表会(見学無料)開催日時

とき 平成15年8月24日(日)13:00~17:00

ところ 郡山カルチャーパーク体育館

問合先 郡山フロンティア倶楽部

☎ 024(934)1266

編集事務局では、皆さんからの情報をお待ちしています。お知らせたいこと、楽しいニュースなどありましたら、編集事務局までご連絡ください。その他、この情報誌についてのご意見、ご希望、ご質問などがございましたら、何でもお気軽に寄せください。

新垣勉おしゃべりコンサート

平成13年7月のデビュー以来、CDも好調なセールスを続け、全国各地でのコンサートも大人気のテノール歌手、新垣勉さん。

全盲、両親の離婚など様々な苦難を克服した精神力が、天性の声にさらに輝きを与えています。

感動的な歌とおしゃべりをぜひお聞きください。

とき 平成15年8月27日(水)18:00~

ところ 勿来市民会館

問合先 社団法人勿来青年会議所

☎ 0246(62)3812

うつくしまYOSAKOIまつり原町大会

うつくしまYOSAKOIまつりが原町市で開催されます。県内最大級のよさこい祭りで地域間交流の振興を目的としています。ぜひ、よさこい乱舞の感動を一緒に味わいましょう。

とき 平成15年9月13日(土)~14日(日)

ところ 原町市駅前通り・雲雀ヶ原

問合先 うつくしまYOSAKOIまつり原町大会実行委員会

☎ 0244(24)0663



第2回全国藩校サミットin会津

会津藩校日新館が開学して200年にあたる今年、第2回全国藩校サミットin会津が開催されます。詳細は下記までお問い合わせください。

とき 平成15年10月18日(土)~19日(日)

ところ 会津大学ほか

問合先 第2回全国藩校サミットin会津実行委員会

☎ 0242(24)3000

募 集

出逢いふれあいフェスタinただみ

『独身女性の参加募集』。はじめて健康な独身女性と地元独身男性が一緒に情報交換しながら地域間交流を深める初秋のお見合いフェスタ。ときめく出逢いを見つけて見ませんか?

とき 平成15年9月13日(土)~15日(月)

ところ 只見町布沢 旅行村憩いの森広場

問合先 出逢いふれあいフェスタ実行委員会

☎ 0241(82)5240

編集事務局

福島県企画調整部 地域づくり領域 地域政策グループ

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16

024(521)7119 FAX 024(521)7912

E-mail tiikiseisaku-g@pref.fukushima.jp

URL <http://www.pref.fukushima.jp/chiiki-shin/index.htm>